

二〇一六年度  
桜蔭中学校 入学試験  
国語 - 解答 -

問一 門とは、本当に入るべきか引き返すべきか逡巡する場所であり、その意味で私自身の意思を確認する場所である。そのうえ、誰でも入れるとは限らないので、門をくぐりぬけることに対しては価値があるといえる。

問二 同門 ・ 一門

問三 門とは、その門をくぐり門の中にいる人と同じ生き方をすることを決意する場所であり、その門の中には、門前で立ち続け、自分の心を確かめ、期待や不安を抱える中で、自分の生き方を決意する必要がある。だからこの心は、期待や不安を抱える中で、自分にふさわしい、多様で見事な形を持つていること。

問四 人が住む空間では、門・入り口によって内と外、私と他のつながりをもったり、拒んだりする。そうすることは、人間の住む条件が整うので。

問五 部屋

問六 ① 裁き ② 遺物 ③ 軽視

二

問一 ヤービ族の「名まえ」は数パターンの名前を親子関係を元に組み合わせてつくる記号のように、その親しい間柄で使う分には混乱することはないが、同じ名前が何度も使われるため、書面で後世に読み返すと区別がつきにくい。そのため、同じ名前が何度も使わ

問二 単に順番を表すようなものではなく、名前の持ち主の特徴を表すものであり、できれば本人がどのようになっているかから見てもらいたいのか、その望みにそった名前をつけてほしい、と考えている。

問三 ひっそりと話すべきものであるだけでなく、刺激な想像がかきたてられ、しいたげられた人々を解放しつづける英雄であるというイメージが、定着してしまつた、というこ

問四 本人を特定する自分だけの名前を呼ばれるとひりひりする感じなので、むしろ代々受けつがれてきた名前の方が自分が自分を自由にしてくれるので、びつたりしていると考えると

問五 ① 情熱 ② 充満

問六 エ